

講習の名称：身体×アート「なってみる」表現の学びにせまる

担当講師：郡司 明子（共同教育学部准教授）

講習開講日：令和3年8月18日（水）

時間数：6時間

主な受講対象者：アート（美術）の教育に関心のある幼、小、中、高校教諭、養護教諭や
栄養教諭も受講可

キーワード：身体、表現、パフォーマンス、即興性、協同性、遊戯性、カリキュラム・マネジメント

講習の概要：

美術（科）教育の概念を拡張しつつ、「なってみる」（パフォーマンスする）ことから表現の学びについて実践的に考えます。想像力と創造性を通じて、もう一つの視点／世界を生きる＝アートの思考／身体への誘いです。教科横断的な視点も織り交ぜながら、カリキュラム・マネジメントの中心に身体を据え「なってみる」学びの可能性に迫ります。

講習の展開：

第1時限 アイスブレイク、「なってみる」ワーク1

第2時限 「なってみる」遊び／学び事例と「パフォーマンス」の理論

第3時限 グループディスカッション等

第4時限 「なってみる」ワーク2、ふりかえり

受講に当たっての要件（講習内容のレベル）：

学校種や教科の枠組みを超えて、観客・共同・即興・創造・発達・遊び（パフォーマンスの6要素：有元2019）に基づき、「なってみる」学びの可能性についてアート（美術）教育の観点から検討します。学校教育現場がもっと居心地よく、学ぶこと本来の楽しさや探究することの面白さを提供できる場であるよう、そのための授業（場）づくりに関心を寄せてくださる方と共に学び合いたいと思います。

授業の形式： 講義および、討論・発表

履修認定試験： 論述形式の筆記試験を課します（ノート・配布資料の持込可）。

テキスト・参考文献：

◎テキストとして以下の書籍を使用します。事前に読んでおいてください。

特に、第1、2、3、4、10、終章は必読です。

香川秀太、有元典文、茂呂雄二 編『パフォーマンス心理学』新曜社、2019

◎参考文献

渡辺貴裕・藤原由香里 著 『なってみる学び－演劇的手法で変わる授業と学校』
時事通信社、2020